

## はじめに

社会の急激な変化に加え、今般の新型コロナウイルス感染症の影響などにより、先行き不透明で予測が極めて困難な状況が続く中、学校教育においては、子どもたちが自分のよさや可能性を認め、他者と協働しながら様々な困難を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められています。

このような中、各学校においては、新学習指導要領の全面実施を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、教育の目的・目標の実現に必要な教育内容等の教科等横断的な視点での組立て、実施状況の評価と改善、必要な人的・物的体制の確保などを通して、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る「カリキュラム・マネジメント」を確立することが重要です。

とりわけ、各学校における教育活動の多くは、児童生徒や地域の実態を踏まえて編成された教育課程の下、指導計画に基づく授業として展開されることから、各学校においては、授業を通じて児童生徒の学習状況を評価し、その結果を児童生徒の学習や教師による指導の改善、さらには、学校全体としての教育課程の改善等に生かすことが大切です。

こうしたことから、本手引では、教育活動の根幹である「学習指導」と「学習評価」が「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っていることを踏まえ、「指導と評価の一体化」の実現に向けて、各学校で取り組む必要がある内容を具体的に示しました。

各学校においては、校長のリーダーシップの下、全教職員で本手引に示された内容や取組について共通理解を図り、教育課程の改善・充実に努めていただくようお願い申し上げます。

令和3年3月

北海道教育庁学校教育局義務教育課長 川 端 香代子